

【品種の特徴】

- 「こしいぶき」に比べ出穂期が3～4日早く、成熟期は1日程度早い早生のうるち種
- 穂発芽性はやや難
- 偏穂重型のため、茎数が確保しにくい
- 稈長は短い、草丈は長い

【生育のめやす】

生育ステージ	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)
最高分げつ期 (6月30日頃)	10.6	72	490	44
幼穂形成期 (7月3日頃)	11.0	76	480	44
2回目穂肥時 (7月11日頃)	12.3	86	440	44
出穂期 (7月25日頃)	13.0	—	370	40
成熟期 (9月4日頃)	—	稈長78	—	—

【収量構成要素のめやす】

目標収量	660kg/10a
穂数	370本/m ²
一穂粒数	92粒
m ² 当たり粒数	34,000粒
登熟歩合	82%
千粒重	24.0g

【主な作業と生育ステージ及び管理のポイント】

時期	4月		5月				6月				7月				8月				9月	
	20		10		20		10		20		10		20		10		20			
主な作業と生育ステージ	播種	田植え		中干し				穂肥		穂肥		出穂期				落水		収穫		
									幼穂形成期										成熟期	

基肥施用	田植え	中干し・溝切り	病虫害防除	穂肥施用・水管理	収穫・乾燥・調製
<ul style="list-style-type: none"> ・基肥量のめやすは、分施で窒素成分7kg/10aとし、一発施肥では13kg/10aとする。 ・倒伏の懸念がある地力の高いほ場では減肥する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽植密度はm²当たり18株(60株セット)以上とし、1株苗数は4本とする。(育苗箱数に注意) ・千粒重が大きいので播種量を増やす。 ・鳥害を回避するためほ場の団地化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中干し・溝切りは、適期に行い、6月下旬には間断灌水に移行して、穂肥までの葉色の維持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉いもち防除は、育苗箱施用等により必ず行い、本田で発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行う。 ・穂いもち防除は、予防防除を行う。 ・斑点米カメムシ類の防除は雑草の除去および加害種に応じた薬剤防除を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・穂肥は出穂期25～23日前(幼穂形成期頃)と14日前の2回に分けて施用する。 ・1回目の穂肥量は窒素成分で3～4kg/10a、2回目を2～3kg/10a、合計6kg/10aをめやすとする。 ・穂肥施用時の生育がめやすを大幅に超える場合は、施用量を控える。 ・出穂期25日後までは飽水管理とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫適期は積算温度1,000～1,100℃をめやすとし、黄化粒割合が90%になった頃とする。 ・胴割粒の発生を防止するため、乾燥は適正温度で行い、急激に乾燥させない。